

# 洋上風力発電事業支援

脱炭素社会の主力電源である洋上風力発電事業を環境と海事で支えます



## 洋上風力発電と今後の展望

2050年の「カーボンニュートラル」の実現に向け、太陽光や風力など再生可能エネルギーの普及が図られています。その中でも洋上風力発電は、大きく三つのメリットがあり、陸上風力発電と比べ、安定的・効率的な発電や風車の大型化が可能です。日本でも政府が主導し、主力電源として普及が進められています。

### ▶ 洋上風力発電のメリット

- ① 海上は風況が良く、風の乱れが小さい
- ② 土地や道路の制約がなく、大型風車の導入が比較的容易
- ③ 景観、騒音への影響が小さい



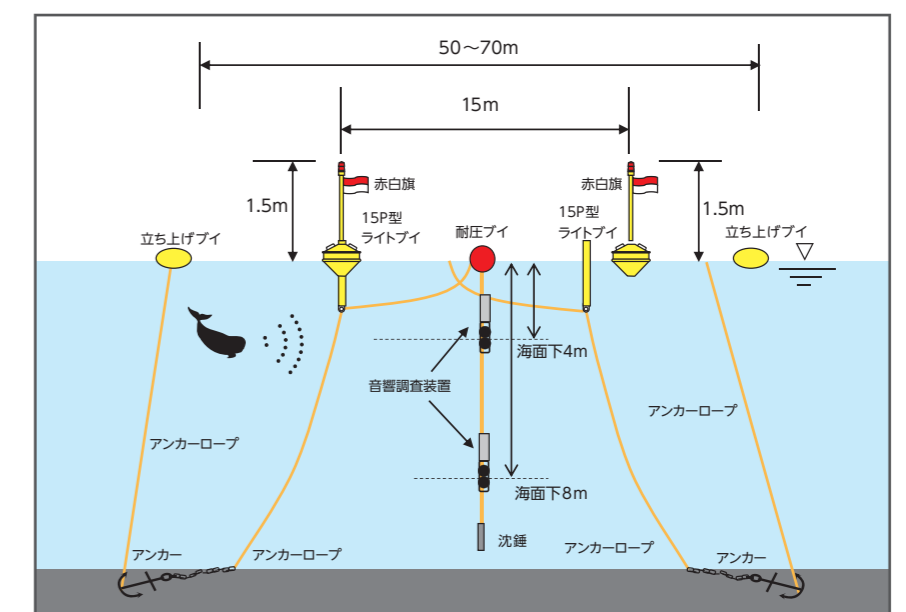
## 取り組み

### 環境アセスメント

レーダーによる鳥類調査、超音波による海生哺乳類の調査、景観モニタージュの制作など、最新の調査・予測技術を導入して、適切な環境アセスメントを実施し、洋上風力発電所と環境の共存を目指します。また、騒音、風車の影のシミュレーションにより、適切な風車のレイアウトの検討も実施します。



レーダーによる鳥類調査



超音波による海生哺乳類調査

### 海事コンサルタント

洋上風力発電所建設に伴う航行安全対策の検討、工事中の安全管理、発電設備運用開始後に必要となる海上アクセス船 (Crew Transfer Vessel=CTV) の検討・運航管理を通じて海の安全面から洋上風力発電事業を支えます。



当社所有防災船「たける」(19t)



当社所有曳船「かすが」(196t)

### 漁業共生

洋上風力発電所の基礎は漁礁のように魚類の生息場になります。藻場造成、バイオテレメトリーなどの技術を活用し、海域の漁業と洋上風力発電所の共存・共栄を目指します。



藻場造成



バイオテレメトリー調査  
(魚に装着した発信器)

## 今後の目標

日本の洋上風力発電の主力電源化と、カーボンニュートラルの達成の実現に向けて、環境アセスメント、海事コンサルタントの技術を通じて洋上風力発電の実現を目指します。